

<このプログラムの取り組み>

町内を現場とする大学の調査活動を中心として、金山町では様々な集団訪問（および滞在）を受け入れサポートを行っています。この分科会では、このような既存の交流環境と支援体制に基づいて、金山の地域活性化や町外に金山の魅力を広く伝える情報発信に大きな効果を持ちうる「金山型の交流のかたち」を検討しています。

今年度は、以下の活動に取り組みました。

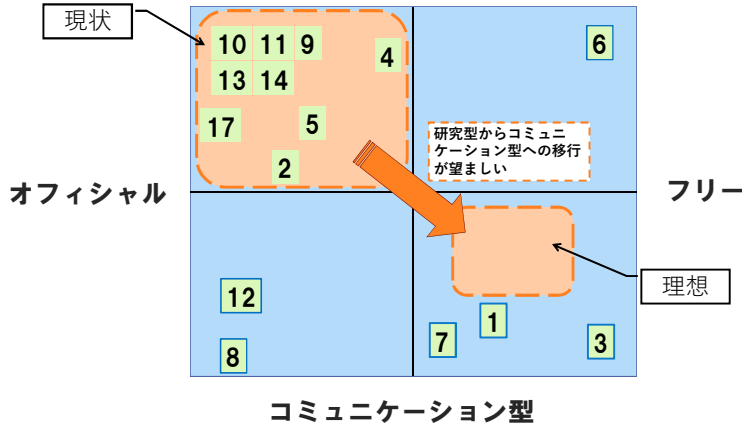
- ◎年間の町内での交流事業を、「金山町×大学交流チャート図」によって可視化
- ◎大学生や地域外の若者などを「大学研究室などの公的滞在」の枠組みを越えて巻き込むような企画の検討
- ◎町観光文化誌「金山の時間」の作成に伴う、新しい情報発信の仕方の検討

<構想・実践メンバー>

- 丹 健一郎（産業課 商工観光交流係主任）
- 星川 康明（産業課 新團芸作物振興係主事）
- 佐藤 雄太（環境整備課 環境下水道係主事）
- 柴田 龍一（総務課 総務係主事補）

◎交流事業(金山町×大学交流チャート図)

研究型



- 研究型 : 特定の対象について、調査研究等を実施
- コミュニケーション型 : 町民と交流もしくは、地域に入って活動を実施
- フリー : 自主的に町を訪れている
- オフィシャル : 講義等の一環で町を訪れている

◎考察

チャート図を分析すると、大学の研究や講義などを主な目的とした「研究×オフィシャル」として来町する大学生が多い傾向にあります。

今後の「金山的交流」としては、「研究」や「講義」としての要素で町を捉えるだけでなく、金山の「関係人口」になりえる「自主性×コミュニケーション」という分野への移行を促すことが必要です。

そのため、町民や大学同士が多様な関係を築くことができるような企画等を通し、お互いが共感できる、ゆるい“第二のふるさと”のような地域としての関係性を繋ぐ交流を目指します。

◎情報発信の強化(金山の時間の活用)

金山町は「街並み（景観）づくり百年運動」を根幹とした景観づくりや全町美化運動など、町民自らが参画する運動を中心としてまちづくりを行ってきました。

先代から受け継がれた歴史と資源を活かしながら、金山町にある魅力を、町観光文化誌「金山の時間」やPR企画を行うことで地域外や次代へと伝えていきたいと考えています。

No	大学名
1	山形大学（エリアキャンパス最上）
2	山形大学（人文社会科学部）
3	山形大学（大学サークル チーム道草）
4	東北文教大学（人間科学部子供教育学科）
5	横浜国立大学（都市イノベーション研究院）
6	東北芸術工科大学（建築環境デザイン学科）
7	東北芸術工科大学（コミュニティデザイン学科）
8	東京都市大学（工学部建築学科）
9	東北大学（工学部建築科・大学院）
10	近畿大学（工学部建築学科）
11	東京芸術大学（美術学部建築科ヨコミゾ研究室）
12	イタリア食科学大学(GEN食文化体験プログラム)
13	山形大学（医学部看護学科）
14	山形県立保健医療大学（看護学科）

※平成31年度に来町した大学を記載



【写真】大学の活動状況

○Teamみちくさの交流活動
(写真左)

○イタリア食科学大学の金山町
交流プログラム(写真左下)

○東北芸術工科大学と地区交流
(写真右下)



【観光文化誌】金山の時間-kaneyama hour project-



東京都市大学大学生による街なかライトアップ

QRコードからアクセスできます！



<これからの取り組み>

今年度の成果をもとに、「金山を第二の郷里とする」若者を育て支える活動に取り組みます。

- ・「関係人口」として金山町と繋がる若者を育て支える手法の検討と実践
- ・「微住」や「ゆるさと」という考えを導入した実証事業の実施
- ・金山を現場として活動する異なる大学同士を繋げる機会の創出
- ・観光文化誌「金山の時間」の発行
- ・「金山の時間」を活用した町外への情報発信の強化